

たらよう

多羅葉に書いた手紙

中央郵便局の多羅葉の木とその葉。10センチほど。



ご健在の小学校の恩師から右のような「多羅葉に書いた三通」の手紙が来た。紙のない時代の「手紙」の再現である。絵手紙など、手紙の書き方を小学生に教えている先生手作りのサンプルである。孫のインターハイに、前橋の県立スポーツセンターに行き、多羅葉を見つければ、それに書き送って来た。しかし、先生！これは多羅葉ではありませんよ、葉の縁に鋸歯がありません。そこで昔の小学生の多羅葉探しが始まった。

平成9年に「葉書の木」が生まれた

小学校二校、南部公園、それに観音寺などの全樹木を同定し、名札をつけた疋田久雄さんに、多羅葉のありそうな場所を聞いたが、当地にはないらしいことが分かった。その多羅葉の木が、東京駅丸の内にある東京中央郵便局に對となつて育つていふと。梅雨の合間に出かけ、守衛もいないし、通行人は無関心だし、黙って葉をいただいてきた。平成九年に多羅葉は、郵便の木ということになり、大きな郵便局には植えられた。硬い葉である。字や絵が描けるから字書芝、絵描柴とも呼ばれ、戦国時代の武士たちが、これに便りを書いた。これが葉書の語源と言われている。

仏教がらみの名前

それにしても多羅葉というのは難しい名前ではないか。優しさがない。古代インドで写経に使つたのがヤシ科の貝多羅Ⅱばいたら、サンスクリット語で葉の音写だという。日本ではそれになぞらえてモチノキ科の、字の書ける葉の木を多羅葉としたもの。材は細工物に使い、樹皮からはモチを取る。

先生の手紙によると、上毛新聞社では、千葉大の寺井正憲教授の教材で、「手紙を書こう」教育プロジェクトが発足したそう。賛同した先生の「多羅葉レター」だったのである。

絵手紙や河原の小石に水引をかけたペーパーウエイトなどが届く。せつせと返事を書かざるを得ない。ワープロは厳禁である。手紙は肉筆で書きなさいという。そういうことを言ってくる人は、いまだきかない。

末広クラブ逆井漫歩94 平成18年7月